チャレンジ体験に参加した中学生のお薦め本

＊□ 内の数字は本の請求記号です。

『図書館戦争』

有川 浩／著　角川書店　913アリ

主人公の笠原郁は高校時代に助けてもらった“王子様”を追い求めて図書隊に入隊。その郁と上司の堂上がバトルを繰り広げながらも，行き過ぎた検閲に立ち向かうという正義があふれ，恋の極上エンターテインメントが描かれています。

続編や別冊もあり，とても面白いです。

『時計館の殺人』

綾辻 行人／著　講談社　913アヤ

館シリーズ　第5作目

「時計」をモチーフとした館で繰り広げられる殺人劇。最後に待ち受ける結末とは･･･？

ラストのどんでん返しが堪らなく面白いです。

散りばめられた伏線と読みごたえのある文は，この本の魅力だと思います。

ぜひ，読んでみてください！

『はてしない物語』

ミヒャエル・エンデ／作　岩波書店　943エ

この本はファンタジー小説が好きな人や自分を変えたいという人に特に読んでもらいたいです。この物語のおすすめポイントは，ファンタジー小説の展開でありそうでなかった話のひろげ方をしているところです。とても読みごたえがあっておもしろいです。

また，自分を変えたいと思う人におすすめする理由は，物語の最初はさえない気が弱い少年だった主人公が，物語の最後には家族の大切さに気が付いたり，勇気をもって自分のやったことを謝ったりと，大きく成長している姿が描かれていて，きっと読者にも勇気をあたえると思ったからです。

『珈琲店タレーランの事件簿』

岡崎 琢磨／著　宝島社　B913オカ

あるきっかけで入ることになった喫茶店「タレーラン」。そこにいたのは女子高生ぐらいの女の子と一人のおじいさんだった。しかし，女子高生ぐらいの女の子はその店のバリスタだった！！

なぜか考える時にはハンドミルを使いながらという少し変わった癖のあるバリスタとお客さん（アオヤマさん）が「タレーラン」に持ち込まれる謎を解いていく！

京都で繰り広げられる珈琲（？）ミステリー。

『人間失格』

太宰 治／著　新潮社　YA913ダザ

太宰 治の書いた『人間失格』は自分の人生そのものを，その手で作品に仕上げた本です。

一度だけでは分からない部分が多く，何度も読む事によって，ようやく作品の本質を理解する事ができます。個々によって解釈の仕方も異なると思うので，話し合いをしてみるのも良いかもしれません。苦悩に満ちた人生で，太宰は何を思い，考え，理解できたのか。何を得る事ができたのか…。

気になる方はぜひ，手に取ってみてください。

『グラツィオーソ　Grazioso』

山口 なお美／著　アルファポリス　913ヤマ

最初はとても弱い吹奏楽部でしたが，ある先生の指導でどんどん勝ち進んでいって，普門館を目指す話です。

とてもおもしろくて感動する話です。

『ゼツメツ少年』

重松 清／著　新潮社　913シゲ

「居場所のない生き物はゼツメツするしかありません」。

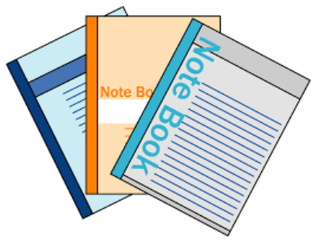
優しく温かな小学5年生と中学2年生が主人公のこの物語は，寂しさと悲しみを纏ったものでした。より良い世の中に変化し続けている中で，その枠に当てはまらずに，ついていけずに生きづらくなってしまう人もいることを知ってほしい。

読み進める中で明らかになる「ゼツメツしちゃう」の意味，いじめ，繰り返される「想像力」という言葉。

驚きと感涙の一冊です。ぜひ一度，この本を手にとってみてください。

『ツバキ文具店』

小川 糸／著　幻冬舎　YA913オガ



主人公の視点から全て書かれていて，本が苦手な人もすぐ読める本です。

この本は一人で文具店を営む女の人が主人公のお話で，隣人の人や近所の人とのちょっとした出来事がテーマの本です。

『ニーチェが京都にやってきて　17歳の私に哲学のこと教えてくれた。』

原田 まりる／著　ダイヤモンド社　913ハラ

「哲学が好きになるきっかけ」

ニーチェと聞いて難しく聞こえるかもしれませんが，身近な所から視点を変えて，「哲学」というものを次々と登場してくる哲学者と共に考えていくという物語です。

一度読みだすと，一瞬にして時間が過ぎていくはずです。